

Eureka IX

六年制通信 No.31 令和4年1月14日(金)号

どうなりたくないか

先週号の最後に、自分の理想とする人物を見つけ、その人のようになるべく勉強を始めようと思いました。ただし、新しいことを始めるときは大量に時間をつぎ込もうとしないこと、とつけ加えました。無理なスタートを切ると挫折してしまいますからね。スモールスタートが長続きのコツであるということは正しいと思います。

本当はあれから二、三書き足そうと思っていたことがあったのですが、先週はスペースがなくなって、続きが書けなくなりました。

実は自分にとってどうしても必要なことを始めるのなら、これはもうスモールスタートどころの話ではありません。私の知り合いで、大学に入ってから古典語を勉強しようと思った人がいるのです。昔のインドの言葉であるサンスクリット、古典ギリシア語、そしてラテン語を三大古典語と言うのですが、どれも英語の比ではない活用形を持った難しい言語です。そのうちラテン語でしたかな、どうしても勉強したくなったらしいのですが(原語で読みたい本があったのでしょね)、指導教授は彼に「この春休みのすべての時間、ラテン語の習得のことだけを考えて集中的に独習すること。その際、文字通り寝食を忘れて取り組むこと。そして春から講読の授業に出なさい」と言われたそうです。「寝食を忘れて」とは寝ることも食べることも忘れるくらい、という意味ですわな、これを先生は本気で言うておられるのです。しかもご自身が実際に行ったことだそうです。すごっ。スモールスタートどころか最初からエンジン全開ですね。しかもこういう外国語の知識というのは、記憶の中でも陳述記憶と呼ばれるもので、常にメンテナンスをしておかないと忘れていくのですね。悲しい哉、人は忘れる生き物なのです。自転車の乗り方や水泳、スキーなどは一度できてしまうと忘れないものですが、ああいう動きとか技能の記憶は手続き記憶といって私たちの運動神経に深く刻み込まれる記憶なのです。確かに年を取ると、こうも忘れるかと思うくらい片っ端から忘れていきますが、私もたぶんまだ自転車に乗れます。

要するに初めから全力スタートでなければダメな場合があるということ、それが言いたかったのです。

それから、時間の使い方について。これは学校の勉強でも新しく始めることでも何でもいいのですが、まずは何事も全力で取り組むこと、これが最も時間を有効に使うコツです。次に見切りをつけることを恐れないこと。学校の勉強は見切りをつけるわけにはいきませんが、 $+\alpha$ で始めたことは、続かないと思ったらすんなり諦めること、これも大切なことです。そして、「終わり」を決めること。ここまで出来たら終了とい

う段階を明確にしておくこと。そうすれば計画が立てられるはず。その計画には「小さな達成」を体験できるような工夫をしておくこと。何度も言ってきましたね。

最後にもう一言。自分が勉強したり努力したり精進したりする動機として、自分の理想とする人物像を描くように言いました。その人に近づけるように努力することは、十分な動機になるでしょうから。しかし、実は逆でもいいのです。なりたい人間になろうと努力する、それも素晴らしいことですが、なりたくない人物像を考え、そうならないように努力する、それも立派な動機になるのではないかと思います。大きな声では言いにくいのですが、こっちの方がむしろ頑張れそうな気がするくらいです。例えば、私、時間を守れない人が嫌いなのです。だから自分はそうなりたくないと思っています。そうすると、時間を守らなければならないと考えて行動するのは MUST になりますが、時間を守らない人になりたくないから自分はちゃんと時間を守ろうと考えれば、それは WILL になるのではないかと、秘かにそう考えています。何事も MUST (～しなければいけない) から WILL (～しよう) に考え方を変えることが大切だとは、かなり前のユリイカに書きました。ですから、「ああなりたい、だから～しなければ」と考えるより「ああなりたくない、だから～しよう」と考える方が精神的には落ち着くような気がします。君たちはどう思いますか。

以上、本当は先週号に書こうと思っていたのですが、年の初め号でしたから、つい **Truth stands repetition.** に気が行ってしまったというわけです。

今週のおすすめ

・山口謠司 『文豪の凄い語彙力』 (新潮文庫)

「広辞苑」は知っていますよね。岩波書店が出している有名な国語辞典です。今は第7版くらいでしょうか。未だに「新村出編」と書いてあると思いますが、その新村先生の先生が上田万年、その上田万年と同時代の人々が明治期に正しい日本語を作り出していく物語が『日本語を作った男 上田万年とその時代』で、その 500 ページを優に越える大著を書いたのが今回の著者です。山口さんて、日本語大好きなんですね。この本を読むとよくわかります。いわゆる文豪と呼ばれる作家たちの文章から、著者が恐らく膝を打って「うまい」と唸ったであろう表現を集めたのだと思います。

的礫「てきれい」(的礫たる花 芥川龍之介)、薫風「くんぷう」(薫風と続けて風の名となす 正岡子規)、秀雅「しゅうが」(秀雅にして高からぬ山 吉川英治)、瀟瀟「しょうしょう」(雨、瀟瀟 永井荷風)、恪勤「かつきん」(精励恪勤の紳士になりました 岡本かの子)、左袒「さたん」(押し潰そうとしている力に左袒する 宮本百合子) など全部で 60 以上の言葉を集めて解説しています。

文豪たちは読者を驚かすような語彙をわざと使っているわけではないと思います。この文脈ではこの語彙しかないと判断して、自信をもってこの語彙を選択したのですね、きっと。本を読んでいて何が楽しいと言って、とてもじゃないが自分には書けないと、そう思える素晴らしい文章に出会うことです。なんと幸せなことか、ですね。

BGM は シーナ&ザ・ロケッツ の ユー・メイ・ドリーム でした…。